

## 平成23年度超深地層研究所安全確認委員会 議事録概要

1. 日時 平成23年10月28日(金) 15:00～15:45
2. 場所 瑞浪市役所駅北分庁舎 2F 大会議室
3. 出席者 水野 光二委員長(瑞浪市長)  
坂 正光副委員長(岐阜県環境生活部長)  
小島 三明副委員長(土岐市副市長)  
石井 紘委員(東濃地震科学研究所所長)  
加納 春海委員(瑞浪市明世町戸狩区代表)  
成瀬 進委員(瑞浪市明世町月吉区代表)  
伊藤 征史委員(瑞浪市明世町山野内区代表)  
渡邊 勝利委員(瑞浪市連合自治会会長)  
有賀 佳代委員(瑞浪市食生活改善推進協議会会長)  
佐分利 衛委員(土岐市連合自治会会長)  
清水 良枝委員(土岐市消防団団本部付分団長)  
安藤 功二委員(土岐市泉町連合区副会長)  
成重 隆志委員(瑞浪市議会議長)  
後藤 久男委員(土岐市議会まちづくり特別委員会委員長)  
川出 達恭委員(岐阜県東濃振興局長)  
永井 隆委員(土岐市総務部長)  
水野 正委員(瑞浪市総務部長) [名簿順、敬称略]
4. 事務局 高橋 明範(瑞浪市総務部次長兼企画政策課長)  
加納 宏樹(瑞浪市総務部企画政策課)  
有賀 大輔(瑞浪市総務部企画政策課)
5. オブザーバー 苗村 公嗣氏(資源エネルギー庁放射性廃棄物等対策室長)  
稲井田 敬一氏(中部経済産業局資源エネルギー環境部電源開発調整官)
6. 報道関係者 中日新聞、東濃新報
7. その他出席者 自治体関係者4名、日本原子力研究開発機構東濃地科学センター2名

## 8. 委員会議事内容

水野委員長

### 【開会あいさつ】

多くの委員のみなさまの出席をいただき、大変感謝申し上げます。また、先ほどは委員会に先立って、超深地層研究所の主立坑への立ち入り調査を行い、都合のつく委員の方にはご参加いただいた。

昨年度の安全確認委員会において、委員会のあり方についてのご意見を受け、関係機関において協議を行った結果、実際に研究が行われている研究所内を調査いただいて委員会に臨んでいただくこと、委員会においても年度の事業説明だけではなく、超深地層研究所計画の進捗状況などをご説明いただくなど、当委員会の『「研究所について、放射性廃棄物を持ち込むことや使用することは一切しない、将来においても放射性廃棄物の処分場としない」ことを確認する。』という設置趣旨に沿った形で運営していきたい。

さて、このたびの福島第一原子力発電所の事故は、国内外で原子力発電そのものの安全性が問われることになり、自然エネルギーをはじめとするエネルギーの転換が求められており、私個人としても、原子力発電に代わる代替エネルギーの確保は必要だと認識しているが、国内には、既に高レベル放射性廃棄物が多数存在しており、自国で発生した廃棄物は自国で処分することになっている以上、原子力政策の動向に関わらず、処分に関する研究は必要であると考えている。

毎回申し上げているが、瑞浪市は、役割分担として研究所を受け入れたのであり、高レベル放射性廃棄物の最終処分場を受け入れる意向は一切ないし、一部では「汚染がれきを引き受けるのではないか」という不安の声もあるが、こちらについても一切引き受けるつもりはない。

藤井所長

### 【あいさつ】

日ごろから、日本原子力研究開発機構の研究及び事業運営に関してご理解、ご支援いただき、御礼申し上げますとともに、当委員会において我々の事業に関して説明の機会を与えていただき、重ねて深く感謝申し上げます。

今後、原子力政策に対して様々な議論が進められると思うが、我々は計画に沿って今後とも安全を第一に開かれた研究施設を目指して着実に研究を進めていきたいと考える。

杉原副所長

### 【日本原子力研究開発機構東濃地科学センターの事業説明】

日本における地層処分に関する研究および安全評価の概要、地層処分の進め方と原子力機構の役割について、最初に説明が行われた。

続いて、瑞浪超深地層研究所の概要、研究坑道の掘削状況、調査研究の目的と

進め方、研究成果の一例についての説明が行われ、深度500mにおける調査研究計画が示された。また、「瑞浪超深地層研究所に係る環境保全協定」に基づく測定結果(排水、放流先河川水、湧水、掘削土、花木の森散策路における空間放射線線量率)や日常の排水管理状況に異常がない旨が報告された。

**【質疑応答】**

伊藤委員 他に北海道でも似たような研究をしていると思うが、どう違うか説明していただきたい。

杉原副所長 北海道幌延町と瑞浪市に地下の研究所がある。日本の地下は非常に多くの種類の岩石があり、また地下水の水質も異なる。

東濃は比較的固い花崗岩を、幌延では堆積岩といわれる柔らかい岩石を対象に研究している。また、地下水には様々なものが溶けているが、幌延は海に近いこともあり、比較的、塩分濃度の高い環境である。地下の状況が違う2種類の環境で研究し、それを統合することで、様々な地質の状況に適應できるようにしていくという考え方で研究に取り組んでいる。

伊藤委員 いろいろところで研究するのはいいが、瑞浪の方が硬い岩盤であるため、地震が来ても対応できる。相当の年数をかけて研究をしてきており、交付金も交付されているので、瑞浪に処分場が建設されるのではないかと考えてしまうが、その辺はどうか。

水野委員長 先ほども説明したが、瑞浪市は電力を使用している者の応分の負担として研究所を受け入れている。確かに研究所の受け入れに対する交付金は交付されているが、それ以上のことは求められてもいないし、受け入れるつもりもない。

杉原副所長 我々は地下を調べる技術や地下に空洞を作る技術の研究をしており、岩盤が処分場の観点から適しているかどうかという評価は行っているのではないのでご理解いただきたい。

加納委員 ちょっと管轄外かもしれないが、最終処分場の公募状況はどうか。

杉原副所長 我々の立場でお答えする内容ではないが、現在、応募している自治体はないと聞いている。

安藤委員 住民代表として、処分場についてはやはり心配がある。行政にはその立場できちっとした対応をお願いしたい。

また、住民には専門的な内容は分かりにくいので、相互信頼に基づいた分かりやすい情報発信と情報公開をお願いしたいし、それが相互理解につながると思う。

現場を見て説明を聞くと、専門知識のない中でも、納得できる部分はある。今後も一層の努力を期待する。

水野委員長 今後も本委員会を続けて開催し、安全であることを確認していきたいと考えている。

佐分利委員 住民代表として放射性廃棄物を持ちこまないということの大前提でお願いしたい。

水野委員長 当然、信頼関係に基づいて成り立っていることなので、信頼関係を構築するには情報を公開して疑問や不安をいち早く払拭することが重要だと考える。地味なことかもしれないが、国、県、市も同じスタンスで臨みたいと思う。

今回より先に現場を見ていただいたが、このことが委員のみなさまのご理解につながったと思う。来年以降も少しでも実りのある委員会となるように努力していきたい。地域で、不安、ご質問やご意見がある場合、その都度ご相談、ご一報いただければと考える。これにて、平成23年度超深地層研究所安全確認委員会を終了する。

苗村室長 【あいさつ】

委員のみなさまにはご参加いただき感謝申し上げます。また、福島第一原子力発電所の件ではみなさまに大変なご心配をおかけしている。

この事故を受け、日本のエネルギー政策をどうしていくのかということについては根本的に見直さなければならないが、高レベル放射性廃棄物は、エネルギー政策がどうなるうともしっかり対応していかななくてはならない課題である。そのような意味で、深地層の科学的な研究は、非常に重要である。

委員のみなさまから処分場になるのではないかと心配の声があがったが、国としては、地元の方とのお約束を守って、ご理解を得ながら研究を進めさせていただきたい。